

統合保育の理念

村山中藤保育園の保育理念には「人間が人間らしく育つ」と掲げている。

すべての子ども達は自ら育つ力を秘めて生まれている、保育環境を柔軟に受け止めながら、遊びも自分で選択し自ら育つ力を発揮して人間性を育てている。

人の手を借りないと遊べない、自らの力で遊べない重度の障害を負ってしまった子どもはこの限りではないが、ほとんどの子ども達は一緒に遊ぶ大人の影響を大きく受けながら育ち、人間としての個性や人間性を育み成長していく。

安全に見守られる中で生活を楽しみ、安心して自ら遊びに挑む姿には主体性があり、その遊びは自己を十分に発揮し心もからだも自ら開発している子ども本来の自然の姿であり、人間らしく育っている様相を保育現場では自然に捉えることができる。

気になる子ども「順調な育ちを見せない姿、障害を抱えた児童も含む」一見、不自然な発育の様相を見せる子どもも丁寧にしていると、自ら育とうとする力を秘めていることがよく分かる。

一般的な子どもと同じように発達の過程では、個人の育ちづらい要素によるものと思われる個人差は見られる。しかし、育とうとする人間本来の生きる力は、平等に持ち合わせている子ども達である。大切に丁寧に対応する保育士の専門性に支えられると、多くの子ども達の中でその子どもなりに自己を発揮し、仲間を受け入れ保育士とも戯れる中で育つ力を見せるようになる。

日々の生活は楽しいことばかりではない、自己中心的な子ども達の集団である。社会性の芽生える4、5歳期に至ってもトラブルは発生する。障害の有無にかかわらず、ともに人と関わり人の中で生きる力が備わる時期にあり、成長過程にあることを踏まえて恐れずに、育ち合う環境を後述のような整備することに着眼する。

統合保育の中で獲得している人の中で生きる力は、障害が基本的に軽くなるという気負った判断ではなく、人の中で生活をするのに必要な力が備わり、障害が軽く見えるようになるのであろうと考えている。

